

新規事業を始めるにあたって大事な事

名古屋産業科学研究所 研究部 上席研究員 藤澤寿郎

1. はじめに

最近、環境ビジネスのマーケットで新しいビジネスが増加している。例えば廃プラスチック類のマテリアルリサイクル、食品廃棄物から飼料化、堆肥化更にはメタン発酵による発電事業、太陽光発電パネルの効率的なリサイクル事業等々である。

このような新しい循環ビジネスの誕生が増加しているが、そのビジネスの採算性があるものでなければならない。

特に従来行ってきたビジネスでなく、マーケットが異なる場合は難しく、何を考えなければならないか、実際の市場や企業の過去のデータを調査して研究した結果を報告する。

2. 目標としている事業の総資産回転率を調査する。

事業の種類によって、設備投資金額は大きく異なる。そこで、目標としている事業会社の総資産と売上金額を調査する。これは上場企業であれば容易に調査できるし、非上場でも可能である。例えば電力会社の場合

A 社：総資産、58,300 億円、年間売り上げ 26,500 億円 総資産回転率：45%

B 社：総資産、13,850 億円、年間売り上げ 5,600 億円 総資産回転率：40%

電力を製造、販売する事業は 40~45%の総資産回転率であることが分かる。

3. 設備投資金額の回転率を予測、調査する。

新しいビジネスを考えると、調査しなければならないことは、設備投資金額がいくらになるか、年間売上金額がいくらになりそうかの 2 点である。

即ち、年間売上金額÷設備投資金額=設備投資金額の回転率を調査する。

4. 総資産回転率と設備投資回転率をほぼ一致させると事業として成功する可能性が大きい。

新しい事業の設備投資金額をいくらにすればよいかを考える。

食品廃棄物等を使用して、メタン発酵させ、ボイラーで発電させたい場合、この事業で 10 億円の年間売り上げが考えられる場合、既存の電力事業者の総資産回転率に合わせると $10 \text{ 億円} \div 40\% = 25 \text{ 億円}$ となる。即ちメタン発酵によるバイオマス発電で成功する為には 25 億円以下で設備投資を行えば、事業採算が合うことが予想でき、設備投資額の目安となる。

この考え方はあくまで 実際の現場での状況を調査してこの結論を得たが最終的には詳細な計算が必要である。しかし全体を先ずとらえて判断することも重要であろう。

この考え方は、循環ビジネスだけでなく新規事業を考えるときに必要と考えている。